

歴史散策パンフレット

～鶴田地区の史跡を歩く～



令和7年度ふるさと体験塾の様子



鶴田区の鷹踊り

製作:さつまガイド
協力:さつま町教育委員会

3 南方神社

「鶴田再撰方札帳」によると、南方神社の前身は崇禎諏訪大明神と書いてあります。記録によると「応永三十三年丙午（1426）7月吉日 諏訪大明神御社一宇建立」と書かれた棟札が残されており、大檀那（出資者）は平氏女となっています。その他、神社には木座像二体と上宮・下宮の扁額が伝わっており、下宮額には「永禄三年（1560）庚申再興 日新（島津忠良）」の記載があります。札帳にはご神体は上宮は勢至菩薩、下宮は千手観音とありますが、千手観音は破損し、勢至菩薩と虚空蔵菩薩及び神札の版木等が個人宅に伝わっています。元來、諏訪社の祭神である建御名方神は武神ですが、他の祭神である事代主命



南方神社

や八坂留売命は商業や農業の神でもあることから、士族、農民などを含む人々の神社となっています。

南方神社は、もと、諏訪山にあった諏訪大明神を明治の中ごろ現在の諏訪坊に移し、明治になって南方神社というようになりました。神社の南西側にある「ミタレン坂」（御手洗い坂）の名は、当時、手を洗い清めた所であったことから今もその名が残っています。

1 鶴田郷地頭御仮屋跡と郷校跡

鶴田郷御仮屋跡

鶴田の地頭仮屋跡は現在の字赤坂の地にありました。江戸時代には鶴田、神子、柏原、紫尾の四村からなる鶴田郷は藩の直轄地で、麓に行政組織の地頭仮屋が置かれていました。ただし、地頭は普段は鹿児島城下に居て、実際の政治は地頭が任命した「噺」「組頭」「横目」の所三役が行いました。この地頭仮屋の跡地には、昭和46年に現在のさつ



昭和初期の鶴田村役場

ま町役場鶴田支所のある場所に移転するまで鶴田村（町）の役場が置かれました。

鶴田小学校の変遷

鶴田郷の郷校は元治元年（1864）の恢弘館から始まり、明治5年（1872）に第76郷校、明治9年に鶴田小学校となりました。昭和37年4月に神子小学校と統合され鶴田2880番地に移転しましたが、令和4年には流水小と統合し、現在の場所に移転しました。



現存する鶴田郷校の門柱

4 歳久供養塔



歳久供養塔

南方神社の上方、旧鶴田小学校グラウンド南側に島津金吾歳久公を祀った高さ160cm、幅52cmの石祠があります。祠には「心岳良空大禅伯霊」とあり、歳久公の遺徳を偲んで後世に建てられたものと考えられます。

5 墮涙石

明治2年、植村津世は父源之助と村の男2人で上流側に草刈に向かいました。草刈りを終えて船で川を渡って帰る途中に転覆しました。

つよは一度は石にしがみつきました。急流に流される父を見てこれを助けようと再度川へ飛び込み2人も命を落としました。親を助けようとしたつよの行動は当時の役所（地頭仮屋）を通じて藩に報告され、表彰と金一封を授けられました。また城内の岩川岡に墓も建てられました。



墮涙石

2 竹林寺跡墓石塔群

竹林寺は「祁答院記」の記載によれば応永年間（1394～1428）の頃、鶴田氏の位牌所として創設したとあります。「鶴田再撰方札帳」には開基（寺の創建者）は雲岳龍公大禅定門で、開山は、祁答院氏の菩提寺住職であった瑩中玖禅師（応永35年戊申（1428）とあります。「三国名勝図会」には、志布志臨済宗大慈寺の末寺で、本尊は虚空像菩薩と記されています。

この墓石塔群は、雲岳龍公大禅定門や瑩中玖禅師のものと想定される石塔のほか、道久（1620）、岩室和尚（1702）、灰岩和尚禅師（1715）、15世正岡玲公後板禅師（1720）、19世慧山智和尚（1773）、桃林全快西堂和尚（1804）の石塔のほか、四世陽谷受公、五世麟岩和尚など多くの高僧の石塔が残されています。



竹林寺跡墓石塔群

6 梅君ヶ城跡

天正年間（1587～1592）の頃の島津歳久の居城跡です。島津氏が日向（宮崎県）の伊東義祐を攻めたとき、伊東氏一族の娘（ウメ）を連れて来て、側室として住ませました。秀吉が太閤陣にきた時に、秀吉の小姓が、梅君ヶ城の屏風の絵をばき取っていたことがわかり、歳久が配下の者に命じて返すように交渉しました。秀吉は、絵を盗んだ小姓の指を斬り、絵と共に返したという話が残っています。城跡には、歳久と梅君を祀った平松神社があります。



梅君ヶ城跡

7 太閤陣跡



太閤陣跡にある石碑

豊臣秀吉は、天正15年（1587）の九州遠征で川内泰平寺で島津義久の降伏を受けた後に、太閤陣に陣取り、島津義弘と会見し、大隅の領土支配を認めました。歳久は病気のため秀吉と会わず、家老を代理として伺わせています。秀吉は、旧暦5月22日から26日まで鶴田に居たようです。太閤陣は鶯の巢陣と呼ばれていましたが、享和2年（1802）に、園田長喬がここに秀吉が陣取ったとの碑文を残したので、太閤陣とも呼ばれるようになりました。



- ① 鶴田郷地頭御仮屋跡と郷校跡
- ② 竹林寺跡墓石塔群
- ③ 南方神社
- ④ 歳久供養塔
- ⑤ 墮涙石
- ⑥ 梅君ヶ城
- ⑦ 太閤陣跡
- ⑧ 鶴田の恵比寿と野町
- ⑨ 鶴田の庚申塔
- ⑩ 大角の田の神
- ⑪ 鶴田合戦古戦場の碑
- ⑫ 首塚
- ⑬ 鶴田城跡
- ⑭ 湯田原古墳

8 鶴田の恵比寿と野町



鶴田の恵比須様と大黒様

野町とは藩が公認した商業地です。野町には商売の神として恵比寿様が祀られています。鶴田の恵比寿様と大黒様はもともとあったものかわかりませんが、大正の中頃に集落の人々が合祀したと言われていす。野町の商品は郷土や百姓の生活に最小限必要な品物を扱う程度でした。これを補う形で定期市や行商人

による商いがあったようです。鶴田郷の野町は以前は広瀬橋上流左岸付近にあったようですが洪水などのため現在の法城寺付近に移転したそうです。

鶴田ダム



鶴田ダム

鶴田ダムは下流を洪水から守り、大鶴湖に貯めた水を利用した水力発電する事を目的として建設された多目的ダムで昭和41年に竣工しました。ダムの高さは117.5メートル、ダム湖の貯水量は1億2300万立方メートルの重力式コンクリートダムです。平成19年から鶴田ダム再開発事業が実施され平成30年には現在の姿となりました。

9 鶴田の庚申塔

庚申信仰とは干支の庚申の日に行われた信仰行事で人の中にいる三尸の虫が、眠っている間に天に悪事を報告しに行くのを眠らずに過ごして防ぐというものです。日本で広く行われるようになったのは室町時代以降です。この庚申塔は、角五輪塔の端正な形をしており、天文三稔(年)(1534)の年号と26人の名前が刻まれています。



鶴田庚申塔

11 鶴田合戦古戦場の碑

応永8年(1401)、渋谷五族の中で唯一島津の奥州家に通じていた鶴田氏に対して他の四族(祁答院・東郷・ incoming ・高城)は島津総州家の支援を受けて鶴田へ攻め込みました。鶴田渋谷家の当主であった重成は島津伊久と鶴田の千町田間(田間田)で決戦し重成は破れて菱刈へ逃れました。この時の合戦は鶴田合戦と呼ばれており平成13年には鶴田合戦から600年を記念して12月9日に鶴田合戦六百年祭が行われました。



鶴田合戦古戦場の碑

13 鶴田城跡

鶴田城は関東から来た渋谷の五族の内、渋谷光重の四男である大谷四郎重茂が居城としたとされる城ですが、築城年代やいつから居住したのかはわかっていません。鶴田合戦で鶴田氏が菱刈に逃れた後は城として使用された記録はありません。



鶴田城跡

10 大角の田の神



大角の田の神

国道267号線沿いに鶴田大角地区の田の神があります。田の神は旧島津藩領に多く残されており、農業の指導者に感謝し田畑の豊作を祈願したものと言われています。この田の神は腰掛けた農民の姿をしており明和2年(1765)の年号が刻まれています。

12 首塚



首塚

応永8年(1401)の鶴田合戦の戦没者の霊を祀るため建てられた供養塔です。大きさは高さ3.3メートル、幅0.82メートル、回り2.9メートルです。大正初めに洪水で広瀬橋付近まで流されたため、元々あったとされる位置に復元したそうです。以前は、現在地より下方にありましたが、耕地整理や河川工事により現在地に移転されました。石塔の基部には人名が彫られており胸部には梵字が刻まれています。

14 湯田原古墳



湯田原古墳

湯田原古墳は川内川を北西方向に臨む標高100mの台地上に位置しており、周辺は畑地で昭和31年頃に原口正三によって報告された古墳時代の墓でその後、昭和53年には町史編纂事業の一環として調査が実施されました。調査の結果、板石積石棺墓(板石積石室墓)を内部主体とする墳墓である事が判明し、墓の中からは鉄の刀や剣、矢じりなどが出土しています。